

モニタリング結果報告書（平成24年度上半期）

施設	神奈川近代文学館
指定管理者	公益財団法人神奈川文学振興会
指定期間	H23. 4. 1 ~ H28. 3. 31
施設所管課	文化課 ()

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえた判定）

B

<判定理由>

昨年度開催した「遠藤周作展」や「安野光雅展」は、幅広い世代の観覧者を集め、文学館開館以来、歴代3位の利用者数を記録した。今年度は、中高年層が受容の中心となる展覧会が連続したこともあって、昨年度上半期の実績には及ばなかったものの、一昨年度(平成22年度)上半期の実績31,915人とほぼ同等の利用者数を記録し、順調に数を伸ばしている。夏に開催した「寺村輝夫展」では、子どもたちが自由に遊べるスペースをエントランスに設け、新たにワークショップやかるた大会の開催など、子どもたちがお互いに交流できるような取り組みも行われた。

また、経費節減においても、交通機関との連携により広報費の削減に取り組んでおり、収支状況も問題ないことからB判定とした。

- A：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
- B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
- C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
- D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考（指導事項等）
			月報確認	現場確認	電話確認		
4月	5月10日	/	○	○	○	無	・「中菌英助展」、「新収蔵資料展」、「文学の森へ第3部」、「中菌英助展」記念講座、閲覧室の展覧会関連図書コーナーをモニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。
5月	6月8日	/	○	○	○	無	・「斎藤茂吉展」、「斎藤茂吉展」記念講演会「茂吉先生の秀歌とわたくし」、閲覧室の展覧会関連図書コーナーをモニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。
6月	7月10日	/	○	○	○	無	・「中野重治展」、「文学の森へ第1部」、閲覧室の展覧会関連図書コーナーをモニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。
7月	8月10日	/	○	○	○	無	・「中野重治展」、「文学の森へ第1部」、「中野重治展」記念ビデオ上映「偲ぶ・中野重治－葬儀・告別式の記録－」、閲覧室の展覧会関連図書コーナーをモニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。
8月	9月7日	/	○	○	○	無	・「寺村輝夫展」、「文学の森へ第2部」、「夏休み子ども映画会」、閲覧室の展覧会関連図書コーナーをモニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。
9月	10月10日	/	○	○	○	無	・「寺村輝夫展」、「文学の森へ第2部」、閲覧室の展覧会関連図書コーナーをモニタリング。業務が適切に行なわれていることを確認した。

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

○ 人的財産とネットワークに基づく卓越した資料収集能力等を生かして幅広い事業を提案。

	提案内容	実施状況
1	<p>・より多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催する。 (集客を目指す展示、独創性のある展示、外に広がる展示など)</p> <p>・館所蔵、新収蔵資料を柱に構成した展覧会も積極的に開催する。</p> <p>[参考] 特別展：毎年2つの展示室で開催する大規模な展覧会。 年2～3回(春と秋)開催。 企画展：常設展「文学の森へ」と同時開催する展覧会。 展覧会ごとに新たな企画として開催する中規模の展覧会。</p>	<p>4月 企画展「中藪英助展」 「2011 新収蔵資料展」 常設展「文学の森へ 第3部」を開催 入場者数 1,055名</p> <p>4月～6月 特別展「斎藤茂吉展」を開催 入場者数 7,618名</p> <p>6月～8月 企画展「中野重治展」 常設展「文学の森へ 第1部」を開催 入場者数 2,356名</p> <p>8月～9月 企画展「寺村輝夫展」 常設展「文学の森へ 第2部」を 開催 入場者数 5,832名</p> <p>10月～11月 特別展「島崎藤村展」を開催 11月～1月 「福田恆存資料展」 「2012 新収蔵資料展」 常設展「文学の森へ 第3部」を開催</p> <p>1月～2月 「福田恆存資料展」 「2012 新収蔵資料展」 常設展「文学の森へ 第1部」を開催</p> <p>3月 企画展「添田唾蟬坊・知道展」 常設展「文学の森へ 第2部」を開催</p>
2	<p>・特別展や企画展と連携した講演会、朗読会、講座、映画会などの企画を開催し、利用者のニーズに応える。</p>	<p>(講演会・講座・朗読会など)</p> <p>4月 春のカルチャーイベント朗読会 ・北杜夫作『楡家の人びと』第一部から(抜粋) 長崎源之助先生を偲ぶ会：朗読会「汽笛」ほか 「中藪英助展」ギャラリートーク</p> <p>5月 「斎藤茂吉展」記念講演会 ・茂吉先生の秀歌とわたくし ・茂吉が生きた時代 ・イキイキと元気で生きる『どくとるマンボウ家の素顔』 ・斎藤茂吉とその師友たち 「斎藤茂吉を語る会」講演会・シンポジウム 「斎藤茂吉展」ギャラリートーク</p> <p>6月 「中野重治展」記念DVD上映会 「斎藤茂吉展」「中野重治展」ギャラリートーク</p> <p>7月 「中野重治展」記念文学講座 ・中野重治の昭和十年代『愛しき者へ』の時代 「中野重治展」記念DVD上映会 「中野重治展」ギャラリートーク 他</p> <p>8月 DVD上映会：「被爆とわたくし」 花音朗読コンサート ・「おしゃべりなたまごやき」ほか かなぶん寄席―真夏の夕べの講談会 ・「樋口一葉・にぎりえ」「四谷怪談」 かなぶんキッズクラブ(夏休み子ども映画会) ・「王さまでかけましょう」ほか かなぶんキッズクラブ(王さまをあそぼう) ・読み聞かせと「王さまステンドグラス」制作 かなぶんキッズクラブ(王さまを楽しもう) ・影絵と紙芝居ほか 寺村輝夫・永井郁子のお話会 ・「わかったさんのドーナツ」DVD上映と読み語りほか 講演会「私の本について話そう」37 ・「王さまのなかの寺村さん」 「中野重治展」ギャラリートーク 他</p>

	提案内容	実施状況
2		9月 文芸映画を観る会：「痴人の愛」 かなぶんキッズクラブ ・「王さまカルタ」大会、「絵本であそぼ！」 (パネル展) 4月～5月 「夏目漱石」(市立川崎高等学校) 井上靖「わが母の記」(静岡県立中央図書館) 6月 「中島敦」(捜真女学校中学校・高等学校) 6月～8月 「夏目漱石」(聖光学院中学校・高等学校) 9月～10月 「夏目漱石」(向上高等学校、平塚学園高等学校)
3	・インターネットによる所蔵資料情報の公開を進める。	近代文学館のホームページで実施 ホームページアクセス件数 50,234件(うち 蔵書アクセス件数 19,409件)
4	・専門館として文学のレファレンスにきめ細かく対応する。 〔参考〕 レファレンス：文学に関する情報ないし資料の各種問合せに対し、仲介的な立場から援助するサービス。利用案内、資料提供なども含む。専門的な質問も多く、公共図書館等他施設から照会もある。	レファレンス件数 129件 ・財団の四半世紀を超える資料調査や蒐集などで集められた情報の蓄積が、レファレンスの能力と精度を高め、迅速で正確な回答を可能にしている。

4 収支状況

(単位：千円)

		収入額			収入合計	支出額	収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入			
募集時の積算額 (参考)		401,259	7,786	5,608	414,653	414,653	0
予算額	前年度	391,896	8,774	6,834	407,504	407,504	0
	上半期	176,731	4,392	3,579	184,702	184,702	0
	下半期	215,165	4,382	3,255	222,802	222,802	0
	今年度	391,896	8,824	6,279	406,999	406,999	0
	上半期	176,681	4,442	3,610	184,733	184,733	0
	下半期	215,215	4,382	2,669	222,266	222,266	0
上半期実績額	4月	20,376	577	680	21,633	16,569	5,064
	5月	28,749	1,560	1,586	31,895	26,543	5,352
	6月	47,867	902	493	49,262	45,552	3,710
	7月	29,628	499	-20	30,107	31,781	▲ 1,674
	8月	26,394	651	173	27,218	26,851	367
	9月	23,667	886	279	24,832	25,678	▲ 846
	今年度 上半期合計	176,681	5,075	3,191	184,947	172,974	11,973
	前年度 上半期合計	176,731	11,219	33,308	221,258	200,575	20,683
	対前年度上半期比				-16.4%	-13.8%	

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

③

収支状況に関する確認等

確認項目	該当	理由等
① 年間予算額における収支差額が0でない	×	該当なし
② 今年度上半期合計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上増減がある	×	該当なし
③ 収入額又は支出額が前年度上半期比で3割以上増減がある	×	該当なし
④ その他特記事項		6月30日に予定していた講演会が講師都合により急遽中止となり、7月に129千円の返金処理(収入の取消仕訳)を行った。129千円以上の収入が他になかったため、7月の「その他収入」額はマイナスとなっている。

<参考>

本施設について県が支出した(する)計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等
基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：100万円以上

	金額(千円)	工事箇所・内容(金額)
上半期	0	
下半期	0	
合計	0	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

- 1 収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等
- 2 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等
- 3 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

5 利用状況

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
4月	4,001 人	5,221 人	▲ 23.4 %
5月	7,340 人	10,810 人	▲ 32.1 %
6月	5,370 人	5,502 人	▲ 2.4 %
7月	3,477 人	4,632 人	▲ 24.9 %
8月	4,702 人	8,720 人	▲ 46.1 %
9月	5,483 人	10,628 人	▲ 48.4 %

	目標利用者数：	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	57,900 人	30,373 人	45,513 人	▲ 47.6 %	▲ 33.3 %
今年度下半期計	— 人	— 人	— 人	— %	— %

※目標利用者数は年間目標利用者数

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

分野	概要	対応状況
施設・設備	展示室入口導入部で流れているピアノの音がうるさい。	スピーカーの音量を下げた。
職員対応	展示室内で大きな声で話している方に注意していただいてありがたい。私語がうるさい方がいるので注意して欲しい。	今後も巡回時に適時対応する。
事業内容	これからも一時代前の忘れられたと思われるような作家を取り上げて欲しい。	「添田啞蟬坊・知道展」を開催するなど、今後も収蔵コレクション展を継続的に開催。
	ちょっと道順がわかりづらかった。	案内表示板を随時設置。
その他	喫茶室の運営者から、「二度と来るな」という発言がなされ文学館のイメージが悪くなった。	事情を確認し、接客態度改善の申し入れを行った。

8 事故や不祥事等の発生状況

該当なし

発生日	事故等の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)

9 随時モニタリングの実施状況

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
()		
()		
()		

10 今期の実績を踏まえた評価、改善策等

(事業について)

上半期各展覧会の入場者数は、春の特別展「斎藤茂吉展」が7,618人、6月開催の企画展「中野重治展」が2,356人、夏の児童文学展「寺村輝夫展」が5,832人と、前年度の同時期に開催した各展覧会に比して、トータルで約半分に減少した。その結果、利用料金収入が前年比約55%の減となった。しかしながら、前年度の利用料金収入は過去最高の記録であり、上半期の収入予算4,442千円に比して14%増となっていることから順調に推移していると思われる。

内容的には、「斎藤茂吉展」は近代短歌の巨星・斎藤茂吉の生誕130年を記念し、世田谷文学館などの類似施設と連携を図った展覧会であり、「中野重治展」は中野家から寄贈された資料をフルに活用しており、両展とも神奈川近代文学館ならではの展覧会といえる。

講演会等の事業については、講演など古典芸能と近代文学の関わりを新たなテーマに加え、ジャンルを超えた企画を織り込むことで新たな客層の開拓に力を注ぐなど来館者数の増加に努めている。

なお、本年度の夏の児童文学展関連イベントの総入場者数は全体で1,100人を超える盛況となった。今後もこうした児童向けのイベントを春・夏休みに集中して開催し、親子で楽しめる文化施設として、文化芸術の活性化に貢献していただきたい。

(運営管理について)

来館者の要望にできるだけ応え、概ね良好になされている。特に、元町・中華街駅から文学館への誘導をスムーズに行うため、外国人墓地の周辺に電柱広告を設置し、利便性の向上と知名度アップに努めている。

経費の節減については、交通機関と連携を図り、無償若しくは割引料金で駅にポスターを掲出するなど広報費削減に努めており高く評価できる。

(次年度以降の改善策等)

本年度上半期は斎藤茂吉、中野重治など中高年層が受容の中心となる展覧会が並んだので、次年度以降は若年層にも配慮し、集客増と経費バランスの効率化を図っていただきたい。

夏の児童文学展については、小・中学校の二学期制により夏休みが短縮されたため、開催期間の見直しや若年層が親しめる事業を多く実施することでさらなる来館者の増加に努めていただきたい。